

## 第2章

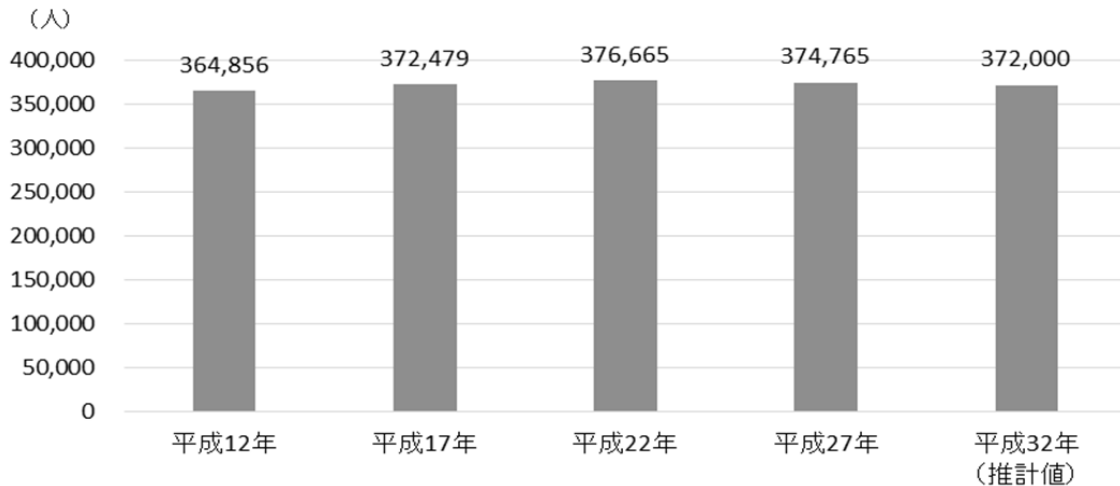
### 豊橋市の現状

## 第2章 豊橋市の現状

### 1 人口の状況

本市の人口は、平成22年までは堅調に増えてきました。しかしながら、出生率の低下などにより平成32年には約372,000人になると推計しています。

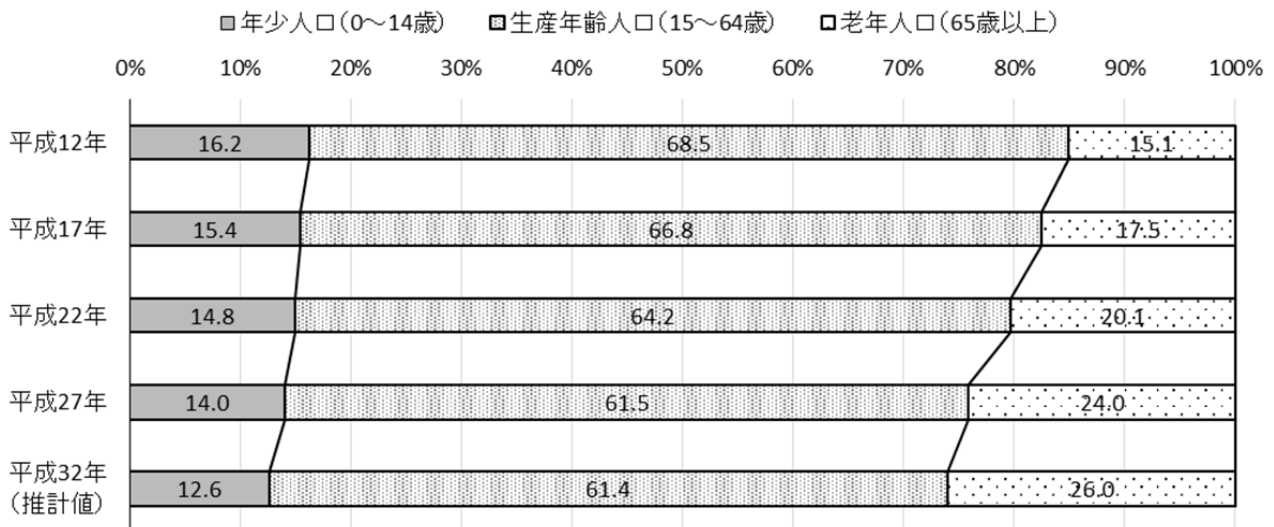
図1 人口推移と推計



資料: 国勢調査 平成32年は第5次豊橋市総合計画後期基本計画人口推計による推計値

年齢階級別人口は、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)が減少していく一方、老年人口(65歳以上)の割合は増加し続け、平成32年には老年人口は26.0%と推計しています。

図2 年齢階級別(3区分)人口構成比の推移と推計

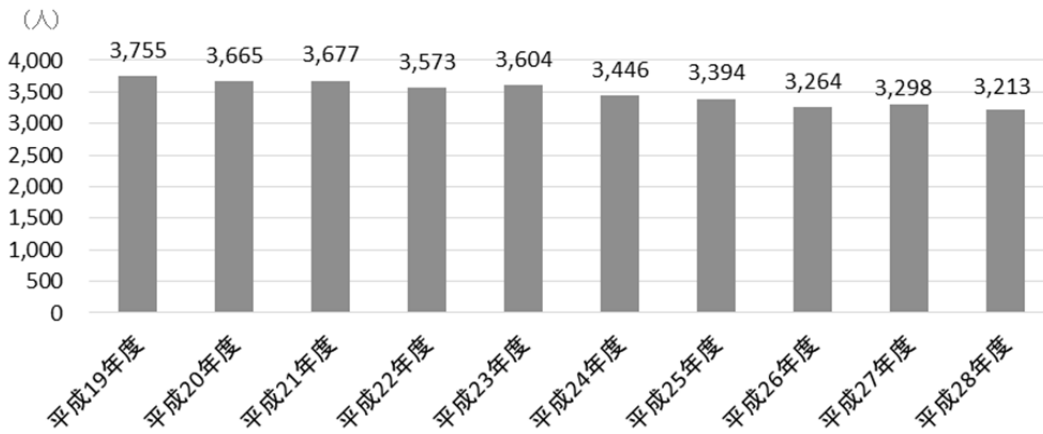


資料: 国勢調査 平成32年は第5次豊橋市総合計画後期基本計画人口推計による推計値

## 2 出生

出生数は、平成 24 年度以降減少傾向にあります。

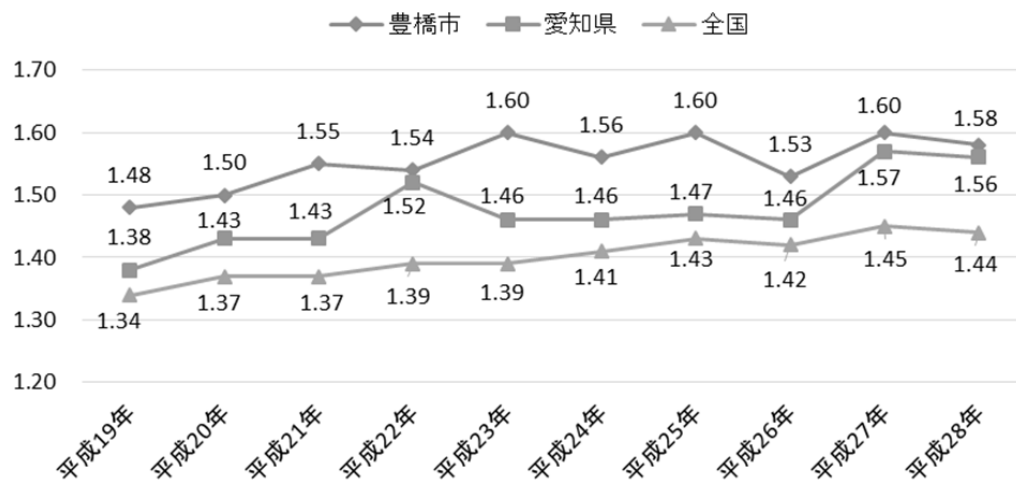
図3 出生数の推移



資料: 住民基本台帳

合計特殊出生率<sup>\*</sup>は、平成 19 年以降は国、県と同様に増加していますが、将来人口が増加するために必要な合計特殊出生率の 2.10 程度を下回っています。

図4 合計特殊出生率の推移

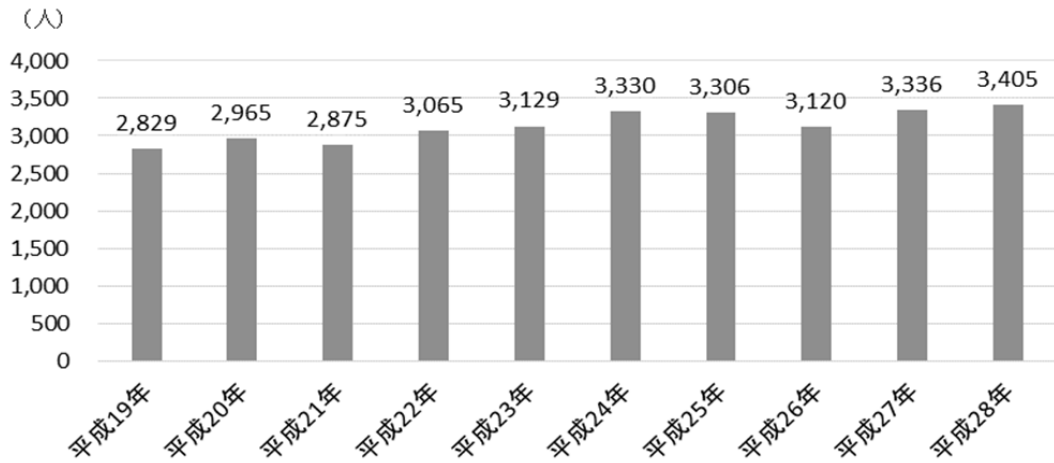


資料: 人口動態統計

### 3 死亡

本市の死亡数は、平成22年以降3,000人を超えて推移しています。

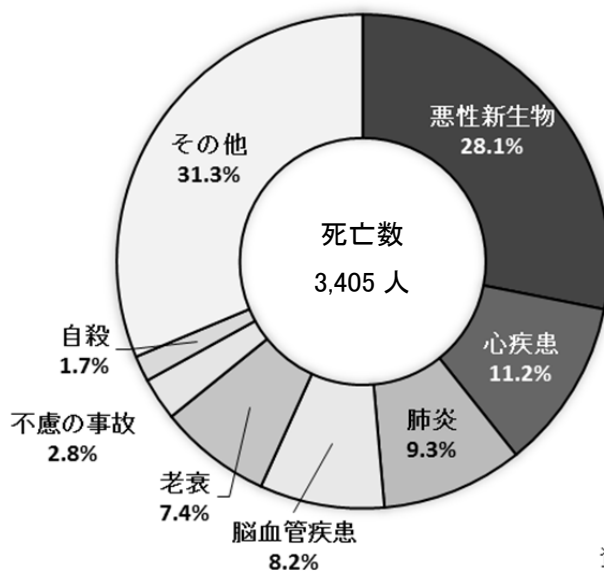
図5 死亡数の推移



資料: 人口動態統計

死亡原因は、「悪性新生物(がん)」が最も高く、次いで「心疾患」、「肺炎」の順となっています。

図6 死亡内訳



資料: 平成28年人口動態統計

年齢階級別死亡原因の上位は、15歳から39歳は「自殺」、35歳以降は「悪性新生物」となっています。

表1 年齢階級別死亡原因

年齢	1位		2位		3位		4位		5位	
	死因	数	死因	数	死因	数	死因	数	死因	数
0～4	その他の呼吸器系疾患他	5	—	0	—	0	—	0	—	0
5～9	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
10～14	不慮の事故	1	その他の死因	1*	—	0	—	0	—	0
15～19	自殺	2	悪性新生物	1	心疾患	1*	不慮の事故	1*	その他の死因	1*
20～24	その他の死因	2	自殺	1	心疾患	1*	不慮の事故	1*	—	0
25～29	自殺	3	不慮の事故	3*	その他の死因	2	悪性新生物	1	心疾患	1*
30～34	その他の死因	5	自殺	3	脳血管疾患	1	—	0	—	0
35～39	自殺	8	悪性新生物	3	その他の死因	2	脳血管疾患	1	—	0
40～44	悪性新生物	7	その他の死因	4	脳血管疾患	3	自殺	2	不慮の事故	2*
45～49	悪性新生物	13	その他の死因	6	脳血管疾患	4	自殺	3	心疾患	3*
50～54	その他の死因	20	悪性新生物	14	脳血管疾患	7	自殺	5	不慮の事故	3
55～59	悪性新生物	47	その他の死因	25	心疾患	10	肝疾患	5	自殺	4
60～64	悪性新生物	63	その他の死因	33	心疾患	13	脳血管疾患	12	肺炎	5
65～69	悪性新生物	107	その他の死因	63	脳血管疾患	18	心疾患	16	自殺	10
70～74	悪性新生物	111	その他の死因	65	肺炎	24	心疾患	23	脳血管疾患	21
75～79	悪性新生物	156	その他の死因	128	脳血管疾患	49	肺炎	42	心疾患	33
80～84	悪性新生物	180	その他の死因	146	肺炎	64	心疾患	49	脳血管疾患	44
85～89	その他の死因	170	悪性新生物	167	心疾患	96	肺炎	80	脳血管疾患	62
90～94	その他の死因	133	老衰	88	心疾患	76	悪性新生物	65	肺炎	54
95～99	その他の死因	70	老衰	55	心疾患	47	肺炎	32	脳血管疾患	22
100～	老衰	24	心疾患	11	その他の死因	11*	肺炎	6	脳血管疾患	2

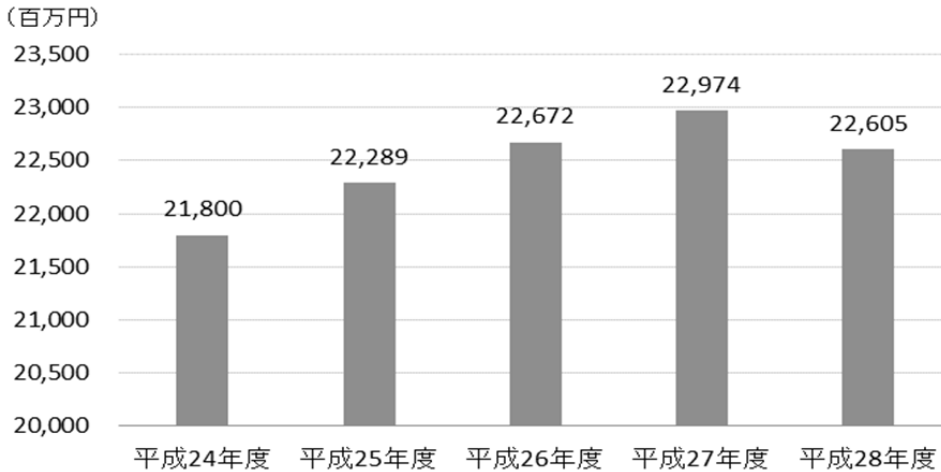
※は前順位の死亡数と同数

資料：平成28年人口動態統計

#### 4 医療費等の状況

本市の保険給付費(医療費のうち、患者負担分を除いた保険者の支出分等)は年々増加してきましたが、平成28年度は後期高齢者医療制度への移行者の増加等による被保険者数の減少に伴い、減少しています。

図7 国民健康保険 保険給付費の推移

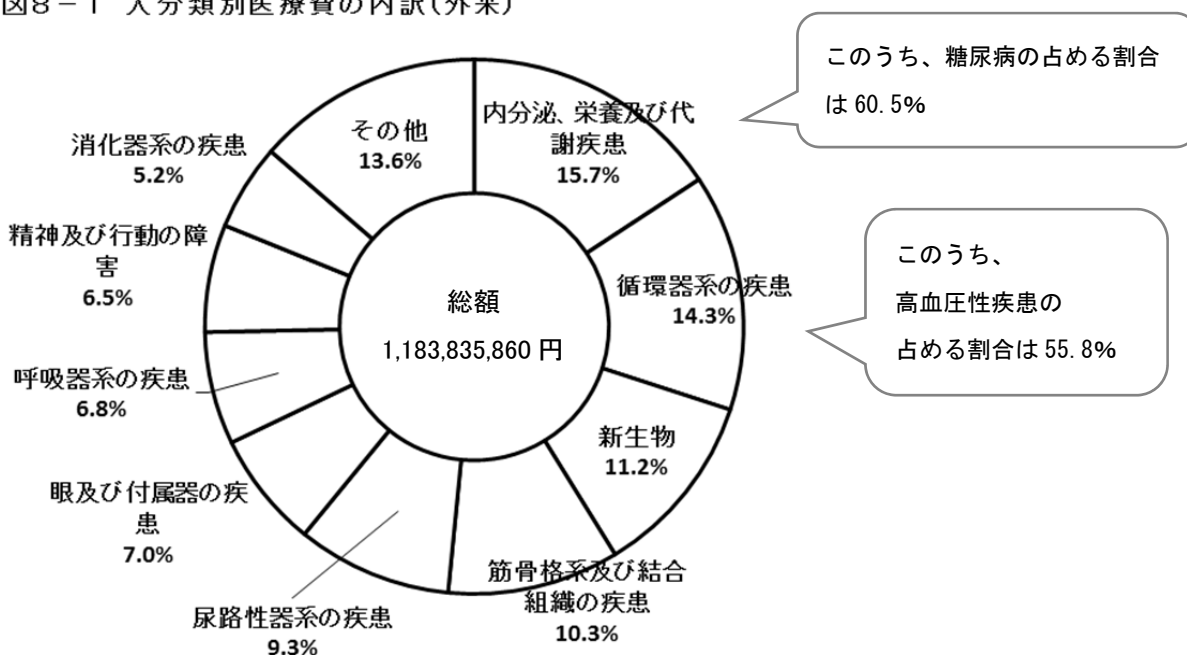


資料: 国保年金課

外来医療費の内訳で最も多いのは「内分泌、栄養及び代謝疾患」です。次いで「循環器系の疾患」、「新生物」の順になっています。

「内分泌、栄養及び代謝疾患」のうち糖尿病の占める割合は60.5%、「循環器系の疾患」のうち高血圧性疾患の占める割合は55.8%です。

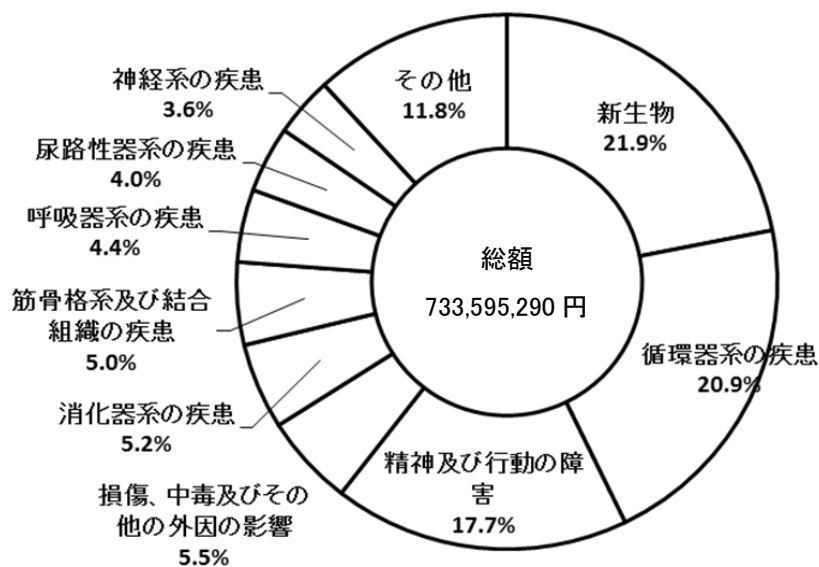
図8-1 大分類別医療費の内訳(外来)



資料: 国保データベース(平成29年5月診療分)

入院医療費の内訳で最も多いのは「新生物」です。次いで「循環器系の疾患」、「精神及び行動の障害」の順となっています。

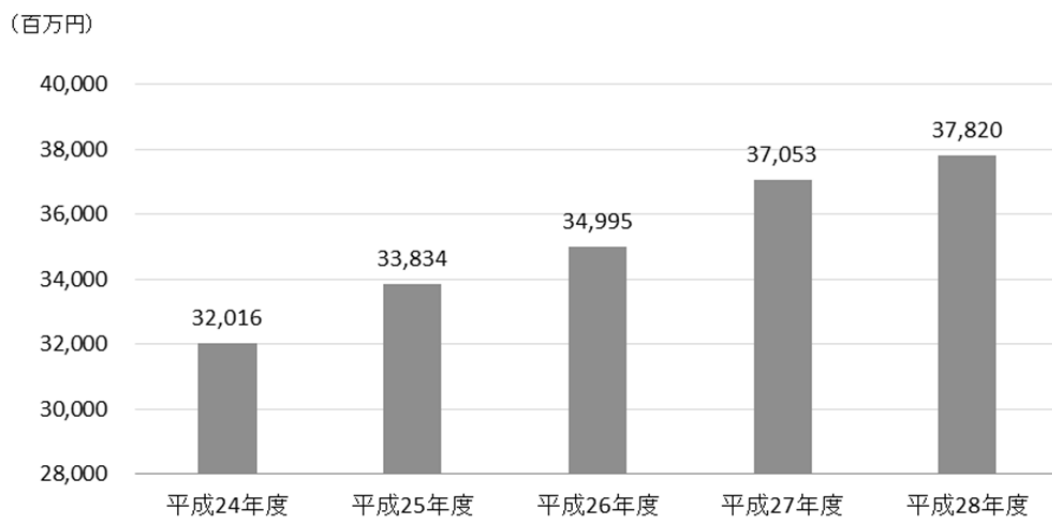
図8-2 大分類別医療費の内訳(入院)



資料：国保データベース(平成29年5月診療分)

後期高齢者医療費も年々増加傾向にあります。

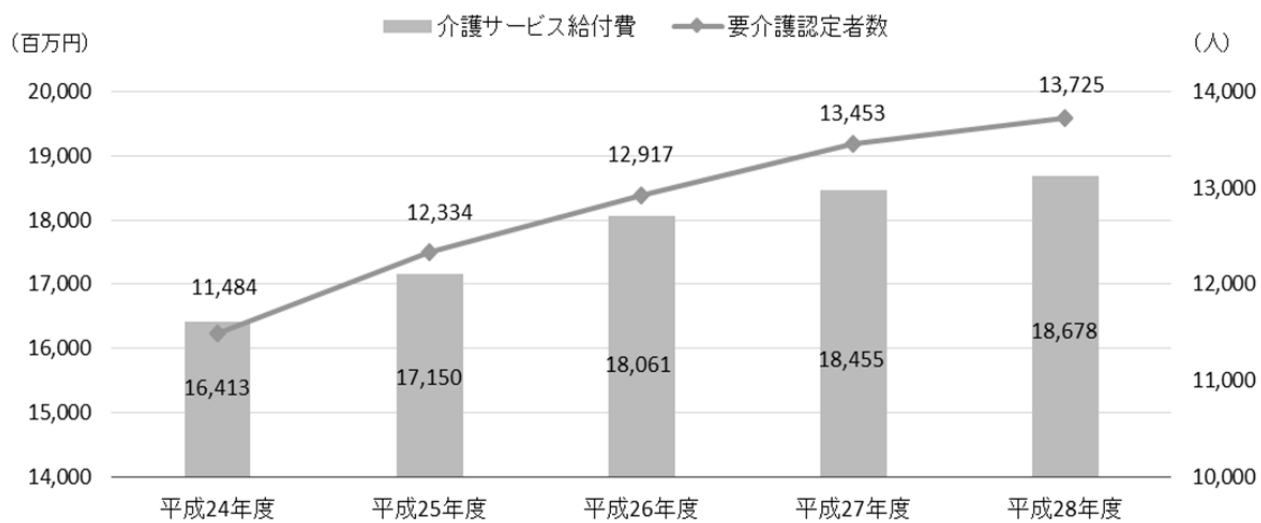
図9 後期高齢者医療 保険給付費の推移(審査支払手数料、葬祭費を除く)



資料：愛知県後期高齢者医療広域連合「愛知県後期高齢者医療の事業概況」

介護保険サービス給付費は、要介護認定者数の増加に伴い、増加傾向にあります。

図10 介護保険サービス給付費及び要介護認定者数の推移



資料：長寿介護課